



愛ランドまーい

地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて

人と人のつながりがより身近な地域には、途切れることのない人の輪があり、脈々と継がれる絆があります。共同体意識に根ざした独特の活動を展開する各字を訪ねました。

蘇った伝統の獅子舞

昭和四十五年の旧暦八月十五夜、那覇市首里末吉町の公民館前広場に、戦後の長い眠りから目覚めたかのように、激しく打ち振るう獅子姿を現しました。

戦前、末吉町の獅子は、公民館の地下でケーと呼ばれる長方形の箱に保管されていました。が、戦争が始まり空襲が激しくなると、地元の人々は獅子頭を守るために山の洞穴に埋めましました。ところが、戦後にその獅子頭を発見することができず、獅子舞の伝統は途絶えてしまいました。

それから、三十六年余、戦前の獅子役が記憶を頼りに、若い担い手を指導し、伝統の獅子舞が甦ったのです。

末吉の獅子舞は、歴史が古く、一八六六年の中国からの使者をもてなす御冠船の宴に演じられたといわれます。戦前は、地元の長男が受け継ぐものとされていましたが、現在その風潮は薄れ、祖父から孫の代に継いでいく会員も少なくなりました。

末吉の獅子は、雄獅子で空手の型を基本動作として、両手で獅子頭を高く上げる役のメー



子供獅子・少年獅子・青年獅子。小学生から五十歳代まで、年代と体格に合わせ、自然に獅子舞が継承されていく。

ニンジュ(前担当)と右手で尾を激しく振る役のクシニンジュ(後担当)で舞う二人獅子。七つの型の獅子舞を十四名で舞います。口を大きく開き、あごを噛み合わせる勇壮な舞が特徴です。こうした昔ながらの型で踊る獅子舞のさまが末吉の守り神を象徴しています。



十五夜に伝統を舞い継ぐ獅子舞

那覇市首里末吉町の獅子舞保存会活動

沖縄戦で焦土と化したなかから、獅子舞を復活させた戦前の獅子役たち



末吉町獅子舞保存会のみなさん。祖父から孫へ、三代にわたる会員もいます。

町の由来は、末吉の杜

那覇市首里の北、こんもりと木々が茂る末吉の杜(もり)。那覇市最大のその樹林地帯から南面には、「末吉宮」を戴く市民のやすらぎの場「末吉公園」が広がります。

昔、末吉の集落は、この山にあったところで、今も末吉公園内には、御嶽(ウタキ)や村井(ムラガ)など、二十ヶ所の拝所があり、町の人々によって大切に守り継がれています。

獅子舞は、県外および外国の公演に数々参加し、戦後二代目の神獅子は南フランスのマルセイユ公演を記念して、マルセイユ知事室に飾られています。

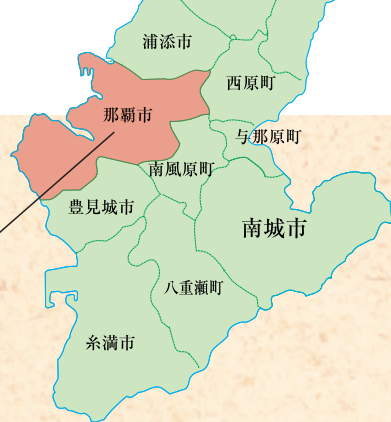


末吉町の獅子舞は、平成2年那覇市無形民俗文化財に指定されました。(末吉公民館にある三代目神獅子)

創造と共生、そして交流の三十万都市那覇市

那覇市は、沖縄の政治・経済・文化の中心地。琉球王朝の象徴首里城、二十一世紀の交通都市モノレール、そして新都心の市街地開発に胸躍る街づくりが進んでいます。

那覇市



都市モノレール

那覇空港から首里汀良町まで定時・定速運行の公共交通システム。



新都心

ますます進化する那覇新都心。大型ショッピングセンターや総合運動公園など、複合都市に変貌した。



ハーリー

600年の長い歴史をもつ那覇ハーリーは、毎年5月のゴールデン・ウィークに行なわれる伝統行事です。



大綱挽き

毎年10月10日に行なわれる那覇祭りのメインイベント。ギネスに載った世界一の綱を万余の人が挽きあいます。

那覇市の概要

「那覇市」は、沖縄県の県庁所在地として、人口30万人余を有する政治・経済・文化の中心地です。また首里台地(標高165M)から東シナ海に面して、ゆるやかに傾斜した平野部を背景に、古くから港が整備されるなど、海外との交流拠点として、「琉球王国」文化が華ひらいた街です。